

平成20年度多文化共生社会づくり推進事業報告書

1 事業の概要

(1) 事業名

外国人の子どもと親のための日本語学習支援事業

(2) 事業の目的・概要

刈谷市周辺に在住する外国人の子ども及び保護者等を対象に、大学の空き教室を使用し、学生が主体となり、日本語学習支援、子どもの教科学習支援及び交流イベント等を実施することで、地域外国人住民との共生社会の構築に寄与する。

(3) 受託団体の概要

AUE親子日本語教室。2003年10月に設立された。愛知教育大学日本語教育コースの学生を中心とし、他専攻の学生も多数参加する活動へと発展している。

2 事業の実施状況（実施期間、実施場所、実施体制、参加者（対象者）、準備作業、事業の具体的内容等）

(1) 実施期間及び実施場所

実施場所：バス旅行以外はいずれも愛知教育大学内

実施期間：平成20年7月1日（火）～平成21年2月28日（土）

(2) 実施体制

愛知教育大学に在籍する国際交流活動に関心のあるボランティア学生による。事務局は、愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルームに置き、日本語教育講座専任教員と学生代表とが役員となり実施する。

(3) 参加者（対象者）

学習者は、地域在住の外国籍の人々で、日本語を学びたいと考えている人及びその子弟等（3歳以上の幼児および学齢期の児童生徒を対象とする）とする。日本語教室は、大人クラスと子供クラスを設けているが、大人クラス（レベル別5クラス）においては、1回平均80名、子供クラスでは1回平均20名の参加であった。

(4) 準備作業

日本語教室の参加者の募集については、会場となる大学近辺のプラジル、中国飲食店、スーパーマーケットなどに張り紙をして行った。教室の運営は、学生ボランティアによって行われ、子供クラスについては、プリントや教材教具の製作、大人クラスについてもプリントや教材教具の製作を毎回行った。交流イベントについては、いずれも、参加者に対するガイダンスや当日の配布物などを作成することで、円滑な運営を図った。

(5) 事業の具体的内容

親子日本語教室
おとな

<大人クラス>

大人クラスでは、『みんなの日本語初級』(スリーエーネットワーク)を使用した授業を行った。A～Eの5レベルを開設している。Aは第1課から第5課、Bは第6課から第12課、Cは第13課から18課、Dは第19課から第25課といった進度予定で進めた。Eクラスでは漢字の練習や作文も授業に取り入れた。

開催日は以下の通り(子供クラスも同日)計13回、90分/回。

- 10月4日、11日、18日、25日

- 11月1日、8日、15日、29日

- 12月6日、13日

- 1月10日、24日、31日

<子供クラス>

大人クラスの学習者が連れてくる子供を対象に行った。学校の宿題に取り組んだり。一緒にゲームをすることで、日本語になれ、楽しく学んでいくことを目指した。

交流イベント

季節ごとに様々なイベントを行った。具体的には、7月26日のシュハスコパーティー、11月8日のハロウィーンパーティ、11月22日のバス旅行、12月20日のクリスマスパーティ、1月31日の新年パーティーがそれである。それぞれのイベントには、平均40名の参加があった。

ボランティア研修会

ボランティア学生の技術向上のため研修会を開催した。講師は、日本語教育講座の教員および大学院生であった。参加人数は、平均15名であった。開催は、各教室終了後の時間を利用し、12月6日、13日、20日、1月10日、31日であった。

3 事業の実施による効果

(1) 日本語教室の開催

本事業には、スタッフとして約40名の学生が参加した。学生は、外国人に対する日本語教育を専門に学ぶもの、教員養成課程で学ぶものなど、専攻はさまざまであるが、本事業を主体的に進める中で、知識と現場との連携を図りつつ、組織の運営の仕方や日本語指導方法の実際、異文化間コミュニケーションの方法などを学ぶことができた。

日本語教室の受講者の皆さんには、コーディネーターとして活動にかかわってくださるブラジル人女性の協力が得られたことで、ポルトガル語による

教室説明が可能となり、受講機会がより多くの人に提供できたと思われる。
 日本語そのもののレベルアップだけでなく、日本人との関わりを通して、対日
 本人観の向上が図れたと思われる。交流イベントでは、受講生同士の情報
 交換の場となり、学習から離れた、日常の中での交流がボランティア学生、
 受講生の相互に見られ、本活動の意義を再確認できた。
 これらの活動を通し、経済状況が悪化している中で、どのような情報を
 受講生の皆さんが必要としているのか、意見が寄せられるようになり、今後の
 活動の手がかりが得られたと考えられる。

4 事業の実施に要した経費

予 算			支 出		
人件費	699,700	日本語指導者謝金 350 × 2 × 13 × 57 人	518,700	指導者 57 人 9,000 × 57	513,000
		通訳・コーディネーター謝金 3000 × 2 × 18 日 × 1 人	108,000	通訳・コーディネーター謝金 3000 × 2 × 18 日 × 1 人	108,000
		保育協力者謝金 1500 × 2 × 13 × 1 人	39,000	保育協力者謝金 1500 × 2 × 13 × 1 人	39,000
		研修会講師謝金 5000 × 5 回	25,000	研修会講師謝金 5000 × 5 回	25,000
		翻訳協力者謝金 3000 × 3 人	9,000	翻訳協力者謝金 3000 × 1 人	3,000
旅費	102,000	翻訳・保育協力者交通費 2000 × 13 × 2 人	52,000	翻訳・保育協力者交通費 2000 × 13 × 2 人	52,000
		研究会等参加旅費	50,000	岡田・上田・酒井・関川・杉田他	42,480
消耗品	88,681	子どもクラス用消耗品	58,681	子どもクラス用消耗品	45,896
		交流イベント用消耗品 300 × 100 人	30,000	交流イベント用消耗品	48,837
通信運搬費	20,000	電話代 2500/月 × 8 か月	20,000	電話代 2500/月 × 8 か月	20,000
保険料	42,000	保険掛け金 100 × 14 回 × 30	42,000	保険掛け金 1 回	840
				予備費	54,328
計	952,381	計	952,381	計	952,381

5. 事業の継続・発展の見通し、今後の課題等

愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルームのホームページから、受講申し込みや、開講日確認などができるようにシステムを整えた。経済状況の急速な悪化から、受講生の減少の可能性も考えられるが、日本語能力ゆえの職探しの難しさから、受講生が増加すると思われる。教室については、地域の外国籍の方々への認知度も高まり、小中学校での案内も積極的に進めていただけるような状況となっている。地域の理解が深まれば、より活動も広く展開できることから、来年度はより一層の受講生増加の見通しを持っている。ボランティア学生の技術向上のための研修会をより効果的に行うことで、学習者のより必要としている日本語能力を身につけることのできる教室の運営に取り組んでいきたいと思う。

子供クラスでは、遊びながら日本語を学ぶことを目標にしていたが、年齢も、日本語能力も異なる多くの子供を対象に、統一的なクラス運営は困難で、学習よりも遊びの時間が長くなるということも生じた。主な原因は、年齢や能力別に教室を開設するのに必要十分な学生ボランティアが確保できていないことにある。年度初めに多数登録されるボランティアも、個々の研究活動や他のサークル、ボランティア活動とのかかわりから、その全数が常に確保できている状況ではない。このことから、学内における広報活動を増やし、活動のスタートを年度初めにできるだけ早く行うこととしたい。

6. その他参考事項